

## 倫理審査申請書

令和 3年 7月 14日提出  
年受付番号 17(-210727)熊本リハビリテーション病院  
倫理委員会委員長 様代表申請者  
所属：看護部 4病棟  
職名：看護師  
氏名：近藤 倫代

所属長の印



下記の研究について倫理審査を申請します。

研究課題名

A病棟におけるチューターの現状～チューターが他スタッフに求める支援～

共同研究者名	所属	職名
松岡 あずさ	看護部 4病棟	看護師
西口 明佳	看護部 4病棟	看護師
他 名		

概要（具体的に記載すること）

① 審査対象（いずれかに○を） 1. 研究計画書 2. 学会発表原稿 3. 出版原稿 4. その他  
( )

②研究の背景と目的

A病棟は回復期リハビリ病棟であり、一般病棟に比べ習得すべき技術を学ぶ機会が少なく、多職種との連携やカンファレンスが多いという特徴がある。1人のチューター(仕事の仕方、学習方法などの精神面・生活面など広範囲に支援を行う、各新人看護師に決められた相談員)が毎日、新入職者の指導をすることは技術面・精神面等を含め、多様な勤務形態によって対応が困難であり、チューター以外のスタッフの協力は必要不可欠である。また、新入職者自身の育ってきた社会背景が様々であり個人の能力に差があるが、個々のレベルに合わせた指導を受けることができていない現状にあり、毎年指導に対する問題が生じている。その問題がしっかり解決されないまま次年度に移行し前年度の反省が活かされていない。まずは現状把握し指導体制の見直しを行い、チューターが周囲のスタッフに求める支援が何かを具体的にして、次年度の病棟の新入職者に関する教育体制の質の向上を図る。

③対象及び方法

対象：現在から過去3年までのチューター

方法：質的研究、実施期間・内容はR3年7～8月：インタビュー、R3年9～11月：フィードバックとする。インタビューについては面接法を用い、チューターに対して、成功したこと、そうでなかったこと、研修を受けて役に立ったこと、実際に指導を行ってみたいの思いなどを話してもらい、何が問題か、今後何が必要かを把握。話が引き出されるよう、面接形態は、その年度ごとのチューターを一度に行う。そこでまとめた内容をもとに他スタッフへフィードバックする

④実施場所及び実施機関

面接場所：4病棟面談室

実施機関：熊本リハビリテーション病院4病棟

⑤データ収集期間

R3年 7月 ~

R3年 8月予定

⑥研究における倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅲは必ず記載のこと）

- I 研究等の対象とする個人の人権擁護 （ 問題あり ・ 問題なし ）
- II 研究等の対象とする者に理解を求め同意を得る方法 （ 書類 ・ 口頭 ）
- III 研究等によって生ずる個人への不利益並びに危険性 （ あり ・ なし ）
- IV 研究等によって生ずる医学上の貢献の予測 （ あり ・ なし ）
- V その他 （ )

## 「看護研究」計画書

研究者氏名	主研究者: 近藤 倫代      共同研究者: 西口 明佳      松岡 あずさ
部署名	看護部 4病棟
研究テーマ	A病棟におけるチューターの現状～チューターが他スタッフに求める支援～
研究の目的	チューターが新入職者を指導する上で困難なことを乗り越えるために良かったこと、悪かったことを見直し、今後のチューター支援に役立てる。
研究しようとする問題の背景と動機	A病棟は回復期リハビリ病棟であり、一般病棟に比べ習得すべき技術を学ぶ機会が少なく、多職種との連携やカンファレンスが多いという特徴がある。1人のチューター(仕事の仕方、学習方法などの精神面・生活面など広範囲に支援を行う、各新人看護師に決められた相談員。当看護部ではプリセプターの名称。)が毎日、新入職者の指導をすることは技術面・精神面等を含め、多様な勤務形態によって対応が困難であり、チューター以外のスタッフの協力は不可欠である。また、新入職者自身の育ってきた社会背景が様々であり個人の能力に差があるが、個々のレベルに合わせた指導を受けることができていない現状にあり、毎年指導に対する問題が生じている。その問題がしっかり解決されないまま次年度に移行し前年度の反省が活かされていない。まずは現状把握することでチューターが周囲のスタッフに求める支援が何か今後の課題を明白にし、次年度の病棟の新入職者に関する教育体制の質の向上に繋げたい。
研究の意義	新入職者への教育が統一され、質の高いものになれば、新入職者が自身をもって働ける職場環境の構築につながると考える。そこでまずは、現状を調査しチューターの抱えている問題を可視化することで病棟全体のスタッフがチューターの役割や、チューターがどのような方針を持って指導に当たるかを理解し支援するきっかけとしたい。
研究方法	1) 研究デザイン 質的研究
	2) データ収集期間 R3年7～8月: インタビュー R3年9～11月: フィードバック
	3) 対象者 R2～3年にチューターをした看護師4名
	4) データ収集方法 ① 面接法(インタビュー)
	5) データ分析方法 チューターに対して、成功したこと、そうでなかったこと、研修を受けて役に立ったこと、実際に指導を行ってみたいの思いなどをインタビューし、何が問題か、今後何が必要かを把握。そこでまとめた内容をもとに他スタッフへフィードバックする
結果公表 院内・院外	熊本リハビリテーション病院, 院内研究発表会
対象者への倫理的配慮	対象者にはインタビュー調査票と共に口頭で説明し配布する。口頭説明内容は、調査目的・調査方法・調査同意は自由意志であり調査への同意や調査票の記載内容が勤務評定等に影響しないこと・個人が特定されないこと・得られたデータは本研究目的以外には使用しないこと・調査票は鍵付き保管庫に保存し、研究終了時にシュレッダーにかけて処分すること・研究結果を公表すること・調査票の提出をもって同意とすることを説明する。
その他	

※対象者への説明文書、同意書、アンケート用紙等を作成し添付する